

作成日

平成27年 11月21日

分科会	第5分科会			テーマ 「環境～人の成長の土台となる環境とは～」
分科会 日 時	平成27年10月31日（土曜日）		13時00分 ～ 16時00分	
研修会場	飯田女子短期大学（保健養護棟1階 保健養護実習）室		参加人数 65名	
助言者名 (所属等含む)	原 和夫 先生 塩尻 めぐみ幼稚園 園長			
担当者	運営委員	勅使河原 公偉	幼保連携型認定こども園	勅使河原幼稚園
	責任者	黒河内 智子	幼保連携型認定こども園	飯田ルーテル幼稚園
	研究委員	//		
	司会者	伊藤 さやか	幼保連携型認定こども園	聖クララ幼稚園
	提案者	井原 恵理香	幼保連携型認定こども園	入船幼稚園
		久保田 奈緒美	幼保連携型認定こども園	入船幼稚園
	記録者	北村 和枝	聖マルチン幼稚園	
	中村 恵	聖マルチン幼稚園		
【分科会・概要】				
I 今日の課題・・・人生の土台となる幼児期に、実際の自然の営みを肌で感じ、体と心の成長のために、子どもが自らかかわり、学ぶために必要な環境、遊びとはどのようなものか、また、子どもの自主性を育む保育者の援助とはどのようなものか、実践を通して子どもの育ちを観察し、今の保育を見直し、今後子どもたちの育ちに活かしていきたいと考える。				
II 園の概要・・・※提案者冊子参照				
III 研究目標				
●子供の体と心が豊かに育まれる環境とは				
●子どもが自主的・主体的にかかわり遊ぶための環境とは				
●自主性・主体性が育まれるための保育者の援助とは				
IV 研究内容・・・ <u>保育実践①「カエルのおかあさん」</u> （年中児）				
子どもたちの姿 → 保育者の援助 → 考察				
※年中児のエピソードを冊子資料とパワーポイントを用いて発表（冊子資料参照）				
<u>保育実践②「流しそうめん」</u> （異年齢活動 年中児・年長児）				
子どもたちの姿 → 保育者の援助 → 考察				
※夏休み希望保育での自由遊びでのエピソードを冊子資料とパワーポイントを用いて発表（冊子資料参照）				
V 研究のまとめ				
1. 子どもたちの体と心が豊かに育まれる環境				
●多くの自然から → 感動体験・感性・好奇心を養うことの重要性				
→命の大切さ・責任感・思いやり				
→遊びの興味による遊びの展開・協力・問題解決				
●保育者の援助から→観取り・見守り・必要な言葉かけ				
→一人ひとりの理解 → 子どもにとっての安心感・伸び伸びとした活動				
→保育者の知識・感性・知的好奇心を絶やさないための環境構成				

## 2. 子どもが自主的・主体的にかかわり遊ぶための環境

- ・ 願いを実現するためのスペース
- ・ 継続して遊ぶための十分な時間
- ・ 互いに意見を出したり、協力する仲間の必要性
- ・ 生き物や草花、木々などの自然環境を最大限に活かすための設備

## 3. 自主的・主体的が育まれるための保育者の援助

- ・ 子どものあるがままの姿を受け止める
- ・ 観察、声を聴く、展開のための物的援助
- ・ 子どもの声を周りに発信する場
- ・ 成功を認め喜び合う場
- ・ 自信を持たせる場面
- ・ 遊びを深める援助
- ・ 知的好奇心のための知識や教材の準備

## VI 研究の成果と今後の課題

## 1. 観取れたこと → 裸足・皮膚感覚の育ち（体感を通しての直接的な感覚）

- 生き物への不思議さ・知的好奇心・探索活動
- 命の大切さ・責任感・相手の立場になり考える力
- 興味や関心の中が拡大・伸び伸びとした表現（自発的行動）
- 安心感・自己肯定感・居場所（保育者のかかわりによる）→ 子どもの受容力の育ち
- 自然物の工夫利用による「考える力」（共に遊ぶ込む仲間）
- 具体的な経験・体験による、経験の「知」の積み重ね

## 2. これからの歩み

- 園の持てる自然の中で、五感を育み自然の中で保育者や子ども同士で季節の移ろい等、様々な変化に気づき合い、心を豊かに育みながら、穏やかに健やかに日々を重ねていけるよう、子どもも保育者も楽しみながら、大事なこの時期を歩んでいきたい。

※以上の報告の詳細は冊子資料参照

## 【質疑・応答】

## ①芝の園庭の長所と短所は？

（聖十字幼稚園 石田神父様）

## ●長所・・・芝生の上でおもいきり走れる点

転んでも痛くない・裸足でも痛くない・土踏まずの形成・体の形成の利点

未満児の園児も安心してハイハイが出来る

## ●短所・・・沢山の植物や芝生の水まきの大変さ（業者さんにはいってもらうが手間と費用が掛かる）

特に夏が大変

## ②ただただすごく広大な敷地と環境設定で、園で根ざすものが無いとできない事。感心する。

畑の中には面倒を見なければならぬ物も多いが、園の先生と子どもたちの手入れや、作業、収穫などにどれくらいの時間や労力がかかり、また、どのように維持しているのか。

（パドマ幼稚園 新田先生）

## ●畑の土台は土なので、土づくりから始まる。

肥料を入れ、耕運機で作業する。耕運機は、近所の地域の方が作業して下さる。「子どもに良いものを」という理解をして下さっている。（移転前も地域の方の協力があつた）

土たて→畝づくり→苗植え→草取り（園児と一緒に、「一人10本はぬこう」）→間引きなどの世話  
→収穫 → 収穫後の片付け（園児と）

③「流しそうめん」の事例で、時間と環境がなければできない事であるが、時間が来たらその都度遊んでいる途中でも片付けをするのか？ また、「片付けたくない」という声にはどうするのか。

(慈光幼稚園 市岡先生)

- 「まだやりたい」との声には、午後にも遊びの時間があるので続きはできる。  
そのままにはしておかないので、草などは里山にあるので、戻そうとの先生の声で納得する。

④事例Ⅰの「カエル」についてで、おたまじゃくしが死ぬことや、逃がしてやる時に話し合う場があったが、子どもたちだけでは難しいこともある。そんな時、どんな言葉かけをするのか？

- 子どもたちだけで決めるのは難しい。「みんなだったらどう？」「本当の家は別の所にあるけど、捕まったらどう？」「どういうところで生活している？」など伝え、図鑑を見て調べたり、考える。また、散歩の時に実際に見て、本来あるべき場所に気付かせていく。「まだ逃がしたくない」という子どもには、気づかせるための言葉かけをしていく。

⑤秋になり、その後子どもたちが気づいたり変わったことは？

(④⑤共 慈光幼稚園 小沼先生)

- トンボが8月の終わりに水たまりのところで卵を産む様子を見守る姿  
トンボを追いかける、帽子で捕まえる姿。コオロギの声真似をし、おびき出そうとする姿が見られた。

⑥今年から「長野県信州型自然保育認定制度」が始まったが、それを利用しているのか？

(稲荷山幼稚園 平部先生)

- 利用していない

⑦移転する5年前のことを聞きたい。園庭の狭さから今のように整った環境に変化したが、5年前の活動と今の活動や5年前の子どもの姿との違いは？

(よしだ幼稚園 羽石先生)

- 5年前は街中とはいえ、飯田の地なので都市化は進んでいない。現在の園舎から5分～10分の所にあった。以前の園も気に入っていたが、とにかく狭かった。園舎の中で安全に走り回れるか・・・と言えば今はとても魅力的である。現在は見通しが良い、危険なく遊べる。以前の園は、広場の公園を利用して頂いていたが、限られた時間・限られた環境の中での活動や遊びであった。以前は畑は園内に無かった。バケツやジョウロを持って通っていた。

- ・子どもの姿の違いとして → 提供しなくても遊びを見つけることができる  
→ 声を掛けなくても意識出来る 自分の発見・自分を感じることが出来る。  
→ 体を毎日しっかり使っている → ごはんをしっかり食べる  
→ 作物の世話がすぐできる → 育てたものを食べる＝食育

⑧環境の素晴らしさを感じた。実のなる木が多く、一年を通して実をつけるところから食するところまで素晴らしい。自然のみずみずしさがよく伝わる写真が良い。写真の中からどんなところを大事にしているのかが伝わってくる。また、地図もワクワクしてくる。作ってみたいと思った。

(上田女子短大付属幼稚園 水野先生)

- 写真は用務員さん(バスの運転も兼任)子どもの表情をキャッチして撮ってくれている。  
ホームページにも掲載されているので、そちらも見てください。

司会：今回の資料により、園舎の奥が充実していることがよく分かった。近くでいながら、園舎の奥まで見た事が無かった。維持することの大変さもあるのではと感じる。

園長先生の思いの中で、それぞれの園の環境の中で、子どもたちのための設定をしていきたい。

井原先生・久保田先生には、今日の発表までの仕上げにあたり、子どもたちのことをよく観ていただき今日に至ったことに感謝します。

15分間の休憩（14時25分から助言とまとめ）

【助言とまとめ】 原 和夫先生 塩尻めぐみ幼稚園 園長

綺麗な資料と、マップが「すごい」と思う。素晴らしい環境の中での実践が見られた。

宗教を土台としている園であり、長く知っている者としてお話をしたい。

はじめに

その

〔フレーベル・・・「キンダーガーデン」＝「幼い子の園」〕

◎芝生と土を考える

・日本はいろいろな意味で新教育要領の狭間にいる。下から上、幼い子が育つての就学。

しかし、どうしても上に揃えるという思考

その園にしておきたくても「グラウンド」になってしまう。歴史で仕方のない事。

◎私たちの思考の中に、グラウンド＝運動場（運動会）の考えが有る。本当に必要なこと？

保育は立ち止まって考えてみる。いろいろな場面で提供していく必要が有る。

・保育を考えるきっかけにして欲しい

・一つの起点としての環境

・子どもたちのために最善を尽くしたい。でもうまくいかない。

◎キリスト教の幼稚園（プロテスタント）教会は豊かではない

日本全国あちらこちらの保育現場では、保育を担う人たちが知恵を出し合い考えて来た。

・恵まれていないが、知恵を用いて面白いことを沢山して来た。

・その園のカラーを大切にしながら、「子ども園」としてより拓いたのであろう。

・5年前までは広くない場所に存在していたが、当時から地域の了解のもと、地域の方と一緒に子どもを育てる文化を築いてきた。（現在も畑の仕事を手伝ってくれる。）

→ 長年の園の思想と伝統が背景にある

◎高台にあるヤギの園舎

・動物と共にある。ヤギの乳の臭さ。ヤギのチーズ

→ 保育を営むということは、不思議な世界を知ること

・「知らない」「分からない」こと → 知っていくことが子ども時代

・実のなる木は希望（小さな花・小さな実・大きくなる・色づいてくる等）過程が見えることが大事

◎私たちは消費文化にどっぷり浸かりこんでいるが、子どもにとっての幸せな環境は設定できるはず。

文化や思想は一日でできるものではないが、より良く作っていくことが大事。

◎保育環境

・子どもを取り巻く全てが「保育環境」でそれによって育ちが変わる。→ 良い環境とは何？

\*今回、素晴らしいものを見せてもらったが、では、私たちの園では？私たちの能動性を引き出すものを考えていくことが大事

<以下、助言者 原先生の資料を基に助言>

長野県の北～南と広く、環境は様々であるが、置かれている環境と文化の中で、知恵を出していく(出せる)現代社会で生きる子どもを考える時、最善の事を考える。女性がどう生きるか、女性と子どもにとってどうあるべきかを考える。

※「自然を離れ、山、川、雲、空、そしてきれいな空気を忘れた生活は、どんなに豊かでも、人間を健やかに保つことはできない」 1903 丸岡 秀子(佐久出身 井出一族)

・いかに豊かにしているか。いかに日々を豊かに過ごすかが大事

※レイチェル・カーソンの言葉より(資料参照)

・レイチェル・カーソン(科学者)「センスオブワンダー」(沈黙の春)  
アメリカの経済優先の農業政策にストップをかけた(考えさせた)人物  
「不思議さ」「神秘さ」に目を見はる感性を授けたい

→ 人間はどう生きたらよいのか…私たちは幼い子と生きる時、自然を離れては生きられない。  
成長を考える時、何を大事にする？

※子どもたちよ。子ども時代をしっかりとたのしんでください。おとなになってから、老人になってから あなたを支えてくれるのは 子ども時代の『あなた』です。 1907 石井 桃子

資料より

◇保育の現場で考える → 入船幼稚園資料 1P今日的課題参照

○幾つかの要因

・住環境が不適切 狭い空間 都市では高層化 土には触れない 小さな自然もない

※「子どもを育てる時、3階以上では育てるな。自分の足で上げられる限度」

せんだ みつる 東京工業大学・・・保育学会での講演より

・バーチャルな世界や生き物のいない世界 → 保育に関わる人自身が自然の中で触れあっていないことが問題になってきている。

・車社会 → 園でどうしていく？かつての散歩とは違ういみで二本足走行を考えていく。

・お兄さん・お姉さんの中で育つ環境が少ない → 一人っ子にとっては、私たちが子どものお手本・モデル  
→ 園の先生達が助け合うことが必要

・保護者が子どものモデルになっていない → 合理性・効率化ばかり求めてしまう → 育てたように育つ

・食品の少量化やチルド食品 → 多品目・三世代の食卓の減少

→ 多品目はいろいろな味覚感覚が育つが、舌が豊かになっていない。

→ 給食の必要性(柔らかく、細かくしない)(租借できるもの)

- ・子どもの小食化 → マイナス点 家庭の問題とできない
- ・どの園でも恵まれた環境（地面に接しての生活）にある。積極的に関わる、関わられるように私たちが支えていく。

資料より

#### ◇成長の基となる保育環境とは

環境に関わるとは、子どもが心地よく周りの有形無形の物事に関わる「子どもの生活」を展開することであると考える。

※「保育者が大切にすべき要点」 存在感・能動性・相互性・自我

津守 真（フレーベルの一番弟子）

資料①

存在感・・・ 「ここにいていいんだよ」という言葉 不安や動揺を打ち消すことば  
園にいる先生からまるごと受け止められることが素敵なこと → 安心感・安定感  
子どもにとっての信頼感 → 保護者以外に信頼できる人  
→ 世界を広げていく・自分を開いていく

資料②

能動性・・・ 園としての安定した基盤 → 自発的行動が増える・何かの時にはきっと助けてやる  
能動性が有る時に遊びが始まる

資料③

相互性・自我・・・ 「ことば」は新しい世界を作る 未熟→相手のことが聞けない  
大人がモデルになってくれない  
サイレントベイビー → 2歳～静かな中にいる  
→ キャーキャーというといけない 抑制しなければと思う  
→ 必要な言葉しか与えない・いい子どもでいさせたい

#### ◎言葉化した時に見えてくるもの

- ・子どもが何かしている時、声掛け・ことばを知っていく。ことばで言うと「こういうことよ」と伝えていく
- ・先生は子どもの傍らにいる時にしか入っていかない。受け入れてもらえない。

#### ◎子どもたちは葛藤体験をしている。

例：自分ではできない → 大事な心を育てる大きな出来事 → すぐに介入しない → 葛藤を見つめる  
→ 重曹的複眼的眼差しで見えていく必要がある

注) 造語

#### ◎保育者はそれぞれに違いがある

- ・子どもたちをいろんな角度から見ていく（多面的）
- ・みんなで保育をしよう → ティーム保育 （ほうれんそうの職員料理）
- ・保育共同体としての園 → 共に考える ・みんなで考える・何となく苦手な子がいていい  
→ 子どもを見る目に変化が起こる・共に子どものことを話し合うことが大事

資料④

◎主体としての自分を作っていく → キリスト教の保育（自律した人格の形成・自分も他者も大切な存在）  
→ 我慢しながら自律していく（日本の社会で大事なこと）

ことば → 意見を聞く → 自分の気持ち ・・・・大人社会が求められていること

大人社会がまず、言葉社会になることが大切。

資料「子どもに委ねる勇氣」

◎三間（さんま）が無い子どもたち（時間・空間・仲間）

- ・ゆったりと流れる時間 仲間 遊び 穏やかさ → 三間の保障・先生に心を委ねる → 信頼感
- ・保障されているから、生き生きとできる。

◎子どもの学習 → 習う = 模倣

- ・模倣からの習得 どう手を動かすのか 上手くいかなくても否定しない

◎情（心）と知の一体化

資料：入船幼稚園の冊子から

エピソード・・・「さくらんぼ、鳥さんにも分けてあげようか」「じゃあ、もう一本鳥さんのために作ろう」「じゃあ、種を植えよう・・・」→ 能動性が生まれている

◎「外」という空間

- ・0・1・2と考えた時、芝生ならばほふくもできる。園の文化の中でグラウンドではなく、ガーデンにしていこう。
- ・私たち人間は、外へ出ていくもの。基本DNAが色濃く残っている。外へ出ていくのは当たり前のこと。出ていけない子どもの方が問題があると思っても良い。
- ・私たちの体は25時間うごいている。日の光を浴びることで、大人も子どもも脳内ホルモンがリセットされる。

◎自然体験が生み出すもの

- ・自然のもので遊ぶことで、手の技が磨かれる → 手のひらで → 指で → 指先で（内から外へ）
- 育ちの保障 → 知的さが生まれる

◎バーチャルの世界

- ・具体性が大事 生と死は無駄なことではない → 入船幼稚園の冊子P6「天国に逝けますように・・・」
- ・子どものアミニズが大切。 やさしさ・宗教心・人間の心に存在する敬意の念 大切に葬る（ゴミ箱に捨ててはダメ）

◎子どもに委ねられている場所

- ・子どもにとって「死角」になる部分は大事（アナーキースペース＝無法地帯）
- 先生は「後ろの目」で見守る すぐに止めない余裕
- ・子どもの発想・予想・クリエイティブな姿が生まれる場所を大事にする。子どもにとっての遊びは、いろいろな学びに繋がっている。

◎自然の中での遊び

- ・子どもはさりげない生活の中で学んでいる → 土・泥・水は不可欠である。
- ・沢山の知を体の中に埋め込んでいくのが子ども。
- ・遊びは成果を得ることを目的としていない。 → 「知」を育てていくもの

バーチャル→現実へ

五感 → 聴覚（鳥・葉音・静まった時に聞こえるもの・人口音でない音など）

→ 視覚（緑・いろいろな緑など）

→ 触覚（木に触る・クモの巣のべたべた感など）

→ 臭覚（ヤギ・ウサギなどの匂い・けもの臭など）

→ 味覚（えぐみ・あく・苦味 吐き出すなど人間の原始的なところに生存が有る）

◎私たちにも出来る・・・私たちも知恵を使う・自覚的に子どもを保障する

その  
「園」の一字には  
野生ではない 自然がある 温室ではない 培養がある 放任ではない 自由がある  
抑制ではない 管理があり 強要ではない 期待がある  
園の一字には 何という心持ちの あたたかさや やわらかさと 潤いの感ぜられることか  
倉橋 惣三先生のことば

【課題】

◎もともと子どもの「園<sup>その</sup>」というイメージを持ちながら具体的な生活・信頼・しなやかな心  
環境の振り返り・作り出す努力をしていくことが大事

配布資料	冊子資料（A4綴じ）・園舎園庭のマップ（A3）（幼保連携型認定こども園 入船幼稚園） B4 資料2枚（助言者 原先生準備）
使用機器等	パワーポイント・スタンドマイク・ワイヤレスマイク・スクリーン
記録写真	記録者の写真は無し（但し、途中で運営委員の方が撮りに来ました）